

|                |                        |                 |                 |  |
|----------------|------------------------|-----------------|-----------------|--|
| <b>外傷学総論</b>   |                        | <b>講義</b>       | <b>教授 千明 政好</b> |  |
| <b>科目カテゴリー</b> | <b>救急救命士コースの専門分野科目</b> | <b>科目ナンバリング</b> | <b>13371301</b> |  |

### 1. 授業のねらい・概要

外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる現場での確認項目を随所に理解していくことを目的とする。

救命することができる外傷死を減らすための観察・処置判断について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。

### 2. 授業の進め方

学生には参加型授業を提案し双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。また、理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

### 3. 授業計画

|  |  |
|--|--|
| 1. 外傷学総論①<br>外傷疫学、外傷の定義と分類<br>2. 外傷学総論①<br>受傷機転<br>3. 現場活動①<br>現場活動の流れ、ロードアンドゴーとは<br>4. 現場活動②<br>状況評価、初期評価<br>5. 現場活動③<br>全身観察、重点観察<br>6. 現場活動④<br>状況評価～全身観察までの確認試験<br>7. 現場活動⑤<br>緊急度・重症度の判断・緊急処置<br>8. 現場活動⑥<br>医療機関への連絡と搬送手段の選択 | 9. 現場活動⑦<br>全身固定要領<br>10. 現場活動⑧<br>詳細観察・継続観察<br>11. 外傷活動で使用する資器材・ヘルメット除去<br>12. 車内活動要領<br>13. 車外救出要領<br>14. 状況評価～車内活動までの活動の確認<br>15. 1回～14回までの確認演習を行う。 |
|--|--|

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 1) 予習（必要時間：約 50 分）
  - a) 教員はオンライン教材(Google Classroom)を使用し、下記のイ)～ロ)に示す 2 項目を学生に提示する。
    - イ) 学習概要
    - ロ) 小テスト
  - b) 学習概要から出題した課題を提出・授業の冒頭 10 分間で小テストを実施する。
- 2) 復習（必要時間：40 分）
  - a) 授業内容整理  
授業で配布したハンドアウト資料を整理させ、次回の授業に提出する。
  - b) 授業内容の再確認  
小テストの誤った項目はレポートにまとめ、翌週提出する。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 筆記試験
  - a) 採点した試験問題および解答をデータで配布(Google Classroom)する。
  - b) 解説は、不正解問題を中心に行う。
- 2) 課題
  - a) 教員は学生が提出した課題に評価とコメントによりフィードバックをする。
  - b) 課題コメントで重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士に係る病院前外傷医療体制を理解する。
- 2) 外傷死を減らすための救急救命士の観察・処置・判断を理解する。
- 3) 頭部から足のつま先まで各部の外傷を解剖学的・生理学的な側面から理解する。

## 7. 成績評価の方法・基準

### 1) 成績評価の基準

予防できる外傷死を減らすための観察・処置・判断・評価ができる能力を育成する。

### 2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出 (20 %)
  - イ) 事前の授業の準備と理解 10%
  - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢 10%
- b) 筆記試験 (80 %)
  - イ) 中間・期末試験結果それぞれ合計点数の60%以上を合格とする。
  - ロ) 再試験は期末の1回のみ実施
  - ハ) 受験資格として3分の2以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事

## 8. テキスト・参考文献

改訂第10版救急救命士標準テキスト

改訂第2版補訂版JPTECガイドブック

適宜指定するテキスト

## 9. 受講上の留意点

医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、医療機関における臨床の実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。